
のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

デュアル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WORLD」

【Nコード】

N6961Z

【作者名】

デュアル

【あらすじ】

主人公が目覚めた場所はなんとドラえもんの世界！だがそこは地獄化としていた・・・

主人公とオリキャラ？とドラえもんのキャラクター達は生き残れるのだろうか！？

はい、ちなみに自分は、初投稿で 国語・銃名・（PC）ほとんど「0」です！なので駄作です。それでもいい方は、読んでいただければ嬉しいです。

恋愛・友情・みたいのは入れたいと思います チートみたいに強
ぎます。てかチートです 無理な人は控えめに・・・
注意パクリ要素や作者の欲望が入るときもあります。そんなことろ
は温かい目で見ていただければ嬉しいです・・・

プロローグ（前書き）

最初の投稿失敗したので削除してまた書き直しました

プロローグ

今、ドラえもんの世界にいる・・・僕の名前は あまの ひかる 天野 輝
目覚めたらドラえもんの世界にいた、それに気づくまでの話

輝「どこだここ？」

目覚めた場所はどこか倉庫の中

輝「確か僕は、交通事故に合い死んだはず・・・とりあえず出よう」

輝は、外に出て人を発見した。ここがどこかを聞こうとして近寄っていく

輝「すみません、ここどこです・・・！」

言葉を飲み込んだ理由は・・・人が人を喰ってるじゃないか！

輝「あ・・・ああ・・・うわああああああ！」

全力でその場所から走り出す、もてる全ての力で走る

その途中も悲鳴や奇声も聞こえていた

「キヤーー！」

「あああ〜」

倉庫があつて開いていたから、中に飛び込んだ

輝「は・・・は・・・なんだったんだよ・・・」

と言った後すぐにの声がした

？「誰ですか!？」

生存者の声！自己紹介をしとかないと

輝「僕は天野 輝です」

？「生存者ですか、僕は野比のび太です」

互いの自己紹介が終わり

輝は疑問に思うことがあつた

輝（野比のび太・・・まさか！）

心の中で何かを確信する輝だったそして自分の持っている能力にも
だんだん気づいていく・・・

プロローグ（後書き）

良くしていきたいと思います小説もPCも・・・

では終わり♪

第一話（前書き）

作者「駄作でスイマセン」

のび太「駄作すぎます」

作者「ううゝ．．．のび太に言われると傷つく」

のび太「（ムカ）」

作者「後書きコーナーで何かしようとおもってます。では」

輝「始まります」

第一話

輝「のび太君は、どこに行く予定だったのですか？」

のび太「はい、避難所の学校へ行こうかと思ってたのです」

その言葉を聞いた輝は生存者がいるかもしれないと思った

輝「僕も付いて行きます。もしかしたら知ってる人に会うかもしれない・・・」

輝はこっちに知り合いがいると感じているのかもしれない

のび太「分かりました。付いてきてください」

のび太に付いてくと倉庫の出口らしきドアがあった。ドアを開けると外に出た

のび太「そとは、相変わらずですね」

と、のび太が言う

輝「はい・・・そうですね・・・」

と、悲しそうな顔で言う、輝

のび太「学校まで後ちよつとですが、そういえば輝さん武器はありますか？」

輝「いえ、ここに来るまでも何回か死にかけました。」

のび太「ならこれあげます。一つと使いかたがわからないこれあげます」

そう言つて出したのはハンドガンベレッタと小さいチャクラムを出した

輝「ありがとうございます。（このチャクラム戻ってきそうだな・・・）

と色々心の中で考えていた輝であった

のび太「速めに行きましょうまた、ゾンビ達が来ます」

輝「あ、すいませんでは、行きましようか」

そう言つて進んでいくとゾンビが向かってきた

「あああ」

輝「一体の様ですね、僕がやってみます。本当は殺したくありませんが！」

と言いつつ先ほど貰ったチャクラムをとりだす。そして投げた輝「ふん」

投げたチャクラムはまっすぐゾンビに向かい首元をかつ切ったそして血まみれのチャクラム（刃先）が戻ってくる

輝「・・・殺しちゃったよ本当に」

のび太「輝さんこうゆう時は自己防衛だからしょうがないです・・・」

のび太は悲しい顔をして言った

輝「のび太君・・・一緒にがんばりましょう！」

のび太「はい！」

そんな話をしている間に学校の校門前に付いていた

のび太「付きました」

そして学校に入っていく二人

のび太&輝「ッ！！！」

二人が見たものは・・・犬！そう人を食べている犬

のび太「犬までもがゾンビに・・・」

輝「簡単には通さしてくれないようですね」

犬「ガルルルル」

のび太「別れて戦いましょう！」

輝「分かりました」

のび太は 犬の頭にピンポイとで打ち抜いたそのころ輝といえば

輝side

輝「これでも喰らえ」

そうつってチャクラムを投げた それが足を全部切り落として、ゆつくりと犬へ向かっていく

輝「さようならだ」

ハンドがんで頭を打ち抜いた

のび太「終わりましたね」

輝「終わったね」

と交互に言い合った

そしてついに学校の中へと入るのであった

第一話（後書き）

作者「輝君に質問です」

輝「はい」

作者「何が得意ですか？」

輝「体育です」

作者「次は、好きな事は何ですか？」

輝「読書とパソコンと同居してる女の子の（次回でます）手料理ぐらいですね」

作者「なるほど質問は以上です。次回をお楽しみに」

輝「次回は生存者がたくさん居るよ」

作者&輝「「終わりです」」

第二話 保健室&無駄な話しあい？（前書き）

作者「文字が少なければすいません」

輝「なんで、ですか？」

作者「PCのメモ帖から書いてるからだ」

のび太「本当に駄目な作者ですね」

作者「のび太に言われたくないんだけどな・・・」

輝「すみません、長らくお待たせしました。始まります

第二話 保健室&無駄な話しあい？

学校内に入ったのび太と僕は近くの教室から生存者を探すのであった
輝「さっきのは危なかったですね、あとのび太君入り口から一番近い教室はどれですか？」

のび太「目の前の保健室です。あと輝さん犬やる時に結構グロイやりか」のび太君まず自分から入ります後から来てください」

途中で言ってることを邪魔されたのび太であった

のび太「わかりました・・・」

そういつて、のび太は警戒態勢に入っていた

輝「保健室ここですね」

そついつて静かにドアを開けた。開けた瞬間中から声が

？「誰だ！！」

バットを構えたゴリラの様な男の子が言った

輝「待つてください、僕は生存者です」

と言ったらバットを収めてくれた

？「脅かすなよ・・・」

輝「ごめんなさい」

と、言うやり取りを終えた後すぐに誰かの声がした

？「輝・・・！！」

輝「？」

輝は声のした方向に向いた瞬間・・・

輝「ゴホ！！」

いきなり抱きつかれた

？「輝だよね？輝だよね！？」

と、聴かれたので

輝「ああ、そうだよ。てか、いきなり何するんですか真理奈！」

真理奈「ご、ごめん輝！嬉しくてつい／＼／」

そのときにのび太がちょうど入ってきた

のび太「輝さんなにをしてるのですか・・・」

と、聴かれた。無理もない女に抱きつかれてるのだから・・・
それでわれに返った輝が言う

輝「真理奈、もういいだろ？離してくれたって」

真理奈「久しぶりに会えたから、後十秒だけ」

輝「まったくもう、ん？お前顔赤いぞ熱でもあるのか？」

と、いって、手は使えなかったから抱かれていたため昔みたいなやり方？でおでことおでこでコツンコのやり方を試した

輝「熱は無いようだが、真理奈もつと顔赤くなってるかい？」

そのときの真理奈は再起不能の状態であつた

真理奈「ツ！！！！／／／／／」

顔が真っ赤になりボシュー（↑効果音）そして真理奈はその場所
で目を回しながら倒れこんだ

輝「おわつと！」

輝は真理奈を抱えて一緒に倒れこんだ

輝「なんだったんだ・・・、おい真理奈大丈夫か？」

輝よ お前鈍いぞ・・・by作者

輝「何か聞こえた様な・・・がまあいいや」

のび太「そのすぐ近くにベッドがありますからそこに寝かせてあげ
てください」

輝「助かりました」

のび太「さて、ジ、ジャイアンそれに皆も無事だったんだね」

？「ノロマなお前がよくいき残れたな」

狐顔の男の子が言った

？「のび太さん、無事だったのね」

女の子が言った

のび太「結構な人が助かってますね！」

そこで皆は、僕と真理奈に合わせて自己紹介を始めてくれた。（の
び太も含めて）

？「僕は、出来 杉英才」

？「僕は、骨川 スネ夫」

？「俺様は剛田 武皆からはジャイアンと呼ばれている」

？「僕は、一年の山田太郎！」

？「白峰だ・・・」

？「私は、桜井咲夜よ」

？「私は、源 静香です」

？「この町の町内会長をやっている 金田 正宗だ」

輝「僕は、先ほど言った。天野 輝です。あそこに寝てるのが星野^{ほしの}

^{まりな}真理奈です」

真理奈「ううん・・・ 皆さん何をしてるのですか？」

起き上がった早々に言う

輝「皆さん、すみませんトイレ行きます。真理奈付いて来てください」

真理奈「あ、うん」

そう言つて保健室を出た。そしてトイレに行かず空きの教室に入つた。真理奈はわからないようだ

真理奈「輝、トイレに行くんじゃないの？」

と、的外れみたいに言われた。から説明をした。

輝「それ、出るための口実です。で、ですね真理奈ここはどこだと思えます？」

真理奈「え、え〜と・・・ ススキが原という名の町・・・ あ、まさか！」

輝「気づいたみたいだね、そう、ここはドラえもんの世界なのです」
真理奈の前で言ったが真里菜は「なぜわかるの？」見たいな顔をしている

輝「よく考えてみてください、野比のび太と言う男の子とその4人の友達たちそして、ススキが原という町の名前、同考えても僕達の世界での漫画・アニメに出ています」

真里菜「よく考えたらそうね・・・」

輝「その話は置いて、真里菜お前どうやってこの世界に来たの

ですか？」

真理奈「輝が死んだ後に私泣きながら寝たのそのとき夢の中で誰かが輝と会えるといわれたから」

真理奈はそれまでの出来事を話していた

？「目覚めよ、真理奈よ」

真理奈「あなたは誰？」

？「私は、あなた」

？に光がまとった。眩しすぎたから真理奈は目をつぶってしまった。もう一度目を開けたときは、もう一人の自分がいた

真理奈「わ、私がもう一人・・・」

真理奈（夢）「そう 私は、あなた」

と、夢の世界の真理奈が言う

真理奈「気私が悪いけど私が私に何のようなの？」

真理奈（夢）「あなたは、愛しい人に会いたいですか？」

真理奈「まさか、輝に会えるの！」

真理奈（夢）「はい、会えます。1カ月後にあなたは死にますよ」

真理奈「え？死ぬの・・・」

真理奈（夢）「そこです。あなたを輝君のいる世界に飛ばします。輝君の方に行くのならこちらの世界では心臓発作で死んだってことになります。痛みは感じません、それが輝君と会わずに1ヶ月過ぎして痛みを感じて死んで輝君と会わないかです。どちらにしますか？」

真理奈「・・・輝の所に行きます！」

真理奈（夢）「私ならそういうと思ってましたよ」では、送ります」

真理奈「待って、あなたをなんて呼べばいいか教えてください」

真理奈（夢）「あなたが呼びたいように呼べばいいです」

真理奈「じゃ・・・美月 星野 美月と呼んでいい？」

美月「星野 美月・・・いいですね！」

真理奈「よかった」それと人格に移り住むこと出来る？」

美月「いけますがどうしてですか？」

真理奈「いつでも話せるようにと何かあったら直ぐに替われるようにです」

美月「なるほど、じゃ、あちらで話しましょう、では飛ばしますよ」
キューン↑テレーポートの音 ポン↑到着音

輝「で、いまにあたるって事ですか」

真理奈「うん／＼／（輝と二人つきりだ／＼／）」
と、内心想っていたが

美月（真理奈、なにをかんがえてるの？・・・）

と、美月に突っ込まれる真理奈

真理奈（ごめん、美月つい、考えちゃった・・・）

輝「真理奈、どうかしましたか？」

心配する輝

真理奈「大丈夫だよ 美月と話してただけだから」

輝「ならいいですが・・・またの機会に美月さんとは、話してみたいですね」

真理奈「またの機会にね」

と嬉しそうに言い返す

美月（いい感じだな君たち・・・）

そう思う美月だった

輝「さて、もうそろそろ戻ろう、皆さんが心配してるだと思えますし」

真理奈「そうだね」

そう言って保健室に戻るのであった

第二話 保健室&無駄な話しあい? (後書き)

のび太「作者なんですか、(のび太も)って!!」

作者「急いで直していたんだ。直してない所もあるかも・・・」

輝「あの二人放っておいて、おきましようか」

真理奈「だね」

輝&美月「後書きコーナー始まるよ」

輝「今日のゲストは、同居している星野 真理奈さんです。(スト
ーリー場は、言ってません)」

真理奈「よろしく願います」

輝「早速ですが、好きなことなんでしょう?」

真理奈「料理にテレビに家事、かな」

輝「次に何個か能力を教えてください」

真理奈「動物との会話と未来予知あとは・・・秘密です」

輝「なるほど、最後の質問です。好きな人はいますか?」

真理奈「そ、それはノノノ・・・」

美月「(私が言うよ)」

真理奈「(まって)」

美月「真理奈が好きな人は、あな(まってー!!!!)」

真理奈「それでは、失礼します!!」

輝「真理奈がすごいスピードで走っていききましたね」

作者「終わりです。後書きコーナー長くてすいません」

天野 輝 & 星野 真理奈（美月）の紹介（前書き）

作者「作者のデュアルです。もうデュアルでいきます。輝と真理奈ちゃんの書いてみたのですが、なかなか思いつかなくて、適当です。」

輝 & 真理奈「「酷いですね（わね）」」

デュアル「国語0の自分に言われても・・・」

輝「やっぱ、駄目作者ですね」

真理奈「がんばってくださいよ。駄目作者さん」

デュアル「うう・・・真理奈ちゃんまでに言われるとは、ではどうぞ」

輝 & 真理奈

「「どうぞ」「」

天野 輝 & 星野 真理奈（美月）の紹介

名前 天野 輝

性別 男

年齢 16歳

性格 憎めないほど鈍感

たまに悪魔化（腹黒と思っておいってください）

優しい

仲間思い

外見 リボーンの沢田 綱吉の死ぬ気モードの炎がないバージョン
とっていてください、服はご想像でまかせます（作者が思いつか
なくてすいませんby輝）

好きなもの 仲間を大切にする人

甘いもの

真理奈の手料理

嫌いなもの 仲間を大切にしない人

自分の料理

悪い人

能力は 思いつきしだい出します。思いついてるのはこれです「デ
ュアルハンド」銃・剣・大体のものを両手で使いこなす（マグナム
やコルトパイソン含めて、いたって、普通ですね・・・）

名前 星野 真理奈

性別 女

年齢 15歳

性格 優しい

純粹

仲間思い

寂しがり

外見 金髪のロングヘア、見た目はスリム、目は黒って言うより青っぽい（日本人です）胸は・・・でかめ、服装はご想像でお任せします

好きなもの テレビ

料理

風呂

輝（笑）

家事

嫌いなもの 仲間外れ

ナス

ピーマン

野菜類何個か

悪い人

能力は 第二話の後書きコーナーに載せてあったのと 陰陽師設定です

名前 星野 美月

性別 女

年齢 15歳

外見 真理奈と同じ 口調が猫口調
好きなもの 真理奈と同じ

嫌いなもの 虫

暗闇

犬（大人の犬）

能力は 基本真理奈と一緒に、フェニックス（不死鳥）を呼ぶことができる。名前は ムウ だそうです。

真理奈とムウ（フェニックス）を共用できる

天野 輝 & 星野 真理奈（美月）の紹介（後書き）

輝「駄目作者なんですか？、僕たまに悪魔化って」

デュアル「ゼクセルさんの星也君とかぶるから悪魔化にしておいた」

真理奈「作者さん」

デュアル「どうしました。真理奈ちゃん？」

真理奈「いつペン死んでみますか？」

デュアル「なんで！？どうしたの！」

輝 & 真理奈

「「今日は作者をばこぼこにするのでここでお仕舞いです（終わりです）」」

デュアル「ちよっ・待ってくれええええええ！」

ぎゃあああああああ

話し合い・探索「1階」(ちょっと)(前書き)

デュアル「話で長くなりました。探索ちよつとですが申し訳ございません」

輝「本当にあなたを作者と呼んでいいものか・・・」

真理奈「私の出番少ないような・・・」

のび太「僕の扱い皆ひどい・・・輝さんと真理奈さんと咲夜さん以外酷い・・・」

デュアル「では、始まります」

話し合い・探索「1階」(ちょっと)

保健室に戻った輝真理奈(美月)皆は当たり前に心配していたのび太「遅かったじゃないですか!皆心配してたのですよ!」

のび太は怒ってるのか心配してるのかごちゃ混ぜみたいに言った輝「ごめん、途中にゾンビが出たもんで・・・すみません」

と、誤魔化す輝

ジャイアン「みんなの無事は確認した。早速だが何人かで一組になって探索する。わかったか?」

一同

「ああ!(ええ!)」

と一同声を合わせた

スネ夫「裏山に隠れるのってどうだい?」

一同

「いいねー(いいんじゃない)」

静香「でも食料はどうするの?」

静香以外一同

「あ!?・・・」

当たり前に驚いた

ジャイアン「じゃ、俺はスネ夫と近くのスーパーに行って食べれるもんと使えるもんを持つてくる」

スネ夫「何で僕が・・・」

ジャイアン「言いだしっぺはお前だろ!、つべこべ言わずに来い、殴るぞ!」

脅すジャイアン

スネ夫「わかったよ」

いやらしそうに言った

のび太「僕は、輝さんと行動します」

輝「自分でいいですか?」

内心不安げな顔をして言う輝、それ見てかわいいと思ってる人物が二人、真理奈・咲夜の二人

のび太「たまに悪魔化してますが非常時だから突っ込みません」
サラッと酷いこと言ったのび太

輝「悪魔化って・・・うう・・・」

今にも泣きそうな輝 心に傷が付いたようだった
そのころ真理奈はというと・・・

真理奈「輝、かわいいと思いませんか？／＼咲夜さん」

咲夜「ええ、かわいいは／＼」

静香「二人とも顔が真っ赤になってるわよ」

真理奈・咲夜「え！？うそ／＼」

もつと顔を赤くする二人であつた

出来杉「僕は、白峰さんで行こう」

白峰「ち、団体行動は嫌いなんだ。」

いやらしそうに言う白峰

出来杉「ははははははは（汗）」

笑ってごまかす出来杉

大丈夫だろうかこれ？・・・by作者

輝「何か聞こえたような・・・まあ、いいですか」

真理奈「私、輝と一緒にいきます！」

輝「真理奈、咲夜さんたちといった方が「行くもん、何を言われても行くもん！」

言つてるところを途中で切られて、真理奈の方を見た。真理奈は泣いていた

輝「ごめんね、だから泣かないで、わかったから ね？」

子供をあやすように言う輝

真理奈「うん・・・」グス

こうゆう時の真理奈はあやすのが大変だ・・・

咲夜「私たちは、裏山に行つてハーブをつんで来ましょうか」

静香「わかりました」

太郎「はい」

金田「私は、ここで待っている。」

待機一人 死亡フラグだぞおい・・・by作者

輝「待つてください、連絡手段どうしますか？」

のび太「職員室に携帯があるからそれ貰っていきましょう」

のび太ナイスだby作者

輝「自分があるので電話番号置いて置きますね」

真理奈「私も」

咲夜「まず、私たちで交換しておきましょう」

輝&真理奈「「持っていたのですか！」」

同じタイミングに驚く 輝と真理奈

咲夜「持っていたわよ？」

ビックリしている二人に冷静に言う咲夜

ジャイアン「とってきて、ここに戻ってから解散わかったか？」

一同

「ああ（ええ）」

携帯持っていないグループが職員室に行った

銃声が聞こえたからのび太が応戦してるのだらうしばらくして皆帰ってきた

のび太「疲れました」

のび太と行ったグループ

「「たすかったよ（ぜ）」」

ジャイアン「全員持ち場に付いて行動だ。解散！」

輝「さて、のび太君どこから行きましょうか？」

のび太「北側の教室から行きましょう」

のび太についていく輝と真理

トビラの前に付く

のび太「まずここから調べましょ」

輝「っ！！！！、待つてください！！！」

のび太が輝がの言った事を聴いて入るのを止めた

真理奈「？」

頭に？マーク付いてる人1名

輝「入るのは、僕だけでいいです。のび太君が入りたいなら一緒に入りましょう。真理奈は絶対にここに待機です。」

いやな予感がする輝。それに気づいたのび太 相変わらず分かってない人1名

のび太「僕も行きますよ。輝さんだけ危険な目にあわせませんよ」

輝「のび太君・・・わかりました。行きましょう！」

そう言い残して入ってくのび太と輝

輝「うつ・・・これは酷すぎる」

輝とのび太が見たものは、頭の無い死体や下半身だけの死体それにいろんな所を食いちぎられた死体

のび太「これは、いくらなんでも酷すぎる・・・ウツ！」

今にも吐きそうなのび太

輝「のび太君は、外に出ていてください。後は自分で探索します。」

のび太「でも・・・」

心配そうに言うのび太

輝「大丈夫です。後は任せてください。」

のび太「・・・わかりました」

出て行ったのび太

輝「さて、探索しますか、ん？あれは・・・」

何かを見つけた輝

輝「これは、「相談室」の鍵と書いてあるみたいです」

確認していたとき窓ガラスが割れた

輝「！！」

そこにいた者とは・・・

犬（生存）「ワンワン」

輝「え？生きてる犬・・・しかも子犬・・・」

改良してみました（笑）by 作者

犬（生存）「ハッ・ハッ・、ワンワン」

輝「一回出ましようか、こっちおいで」

犬（生存）「ワンー！」

犬と出る輝

外ではゾンビとやりあつた真理奈とのび太

え？なぜ真理奈が戦つてゐるって？マシンガンのM10を持っていたからだよby作者

真理奈「拾つたんです」

聞こえてるのかい？by作者

真理奈「はい」

純粹だねby作者

真理奈「それでもありません。現に人殺してますし・・・」

自己防衛だ気にするなby作者

のび太「終わりました」

話して間に終わつた

輝「一回保健室に戻りましょ。この子犬を置いていかないと」

真理奈「わかつたわ」

そう言つて戻つていく3人と一匹

話し合い・探索「1階」(ちょっと)(後書き)

デュアル「文字間違っからすいません」

輝「さすがです。馬鹿作者、ゼクセルさんや超人類さんやそのほか小説かいてる人を見習ってください」

真理奈「ホラー小説なのに怖くないような気がします」

デュアル「書けないから、これで行くよ(笑)」

輝&真理奈

「「終わりです(だよ)」」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6961z/>

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

2011年12月28日11時48分発行